

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎志願状況全体概況

□一般選抜志願者数は2年ぶりに減少

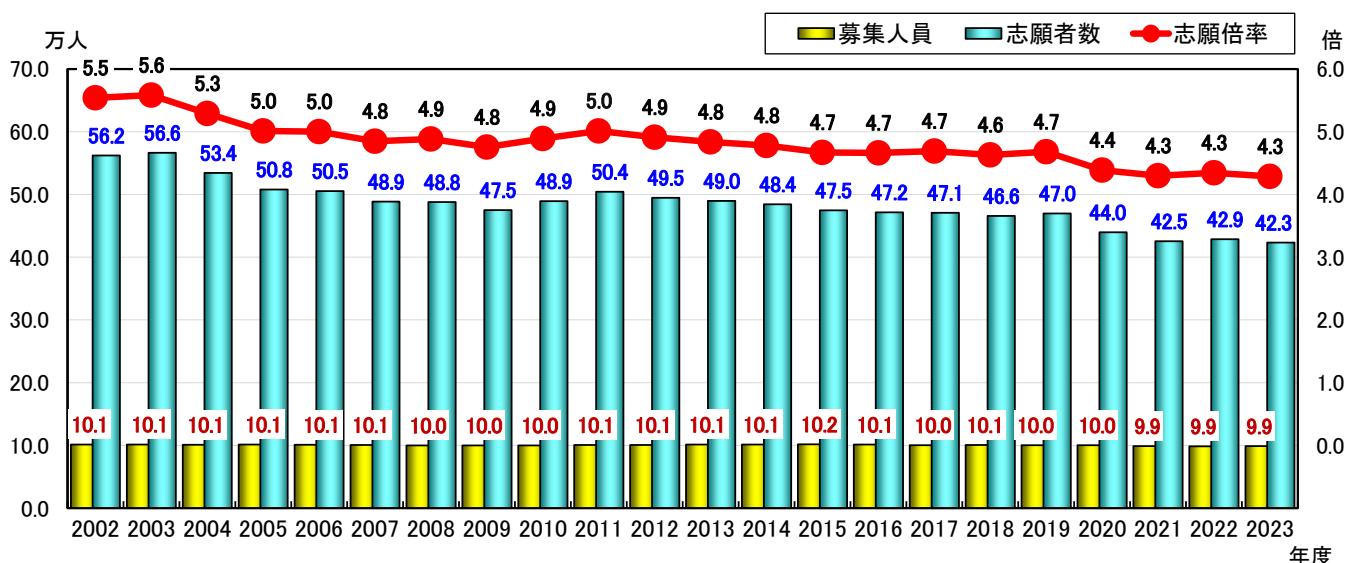
〔設置・日程別志願状況〕

設置	日程	2023年度					2022年度		
		募集人員	志願者数	志願倍率	増減数	指数	募集人員	志願者数	志願倍率
国立	前期	63,648	176,484	2.77	-2,836	98	63,637	179,320	2.82
	後期	12,679	121,821	9.61	-1,812	99	12,962	123,633	9.54
	合計	76,327	298,305	3.91	-4,648	98	76,599	302,953	3.96
公立	前期	16,572	54,917	3.31	+274	101	16,308	54,643	3.35
	後期	3,388	38,246	11.29	-1,401	96	3,367	39,647	11.78
	中期	2,428	31,663	13.04	+283	101	2,349	31,380	13.36
	合計	22,388	124,826	5.58	-844	99	22,024	125,670	5.71
合計	前期	80,220	231,401	2.88	-2,562	99	79,945	233,963	2.93
	後期	16,067	160,067	9.96	-3,213	98	16,329	163,280	10.00
	中期	2,428	31,663	13.04	+283	101	2,349	31,380	13.36
	合計	98,715	423,131	4.29	-5,492	99	98,623	428,623	4.35

※独自日程で入試を実施している国際教養大、新潟県立大、叡啓大および専門職大学を除く。

文部科学省が2月21日に発表した2023年度国公立大一般選抜の確定志願状況によると、確定志願者数(独自日程で入試を実施している国際教養大、新潟県立大、叡啓大および専門職大学を除く)は423,131人で、前年度と比べて5,492人(99)の微減で、前年度3年ぶりに増加しましたが再び減少に転じました。しかし、共通テスト受験者数の前年度対比指数97を上回りました。共通テストの平均点アップにより出願を諦めなかった受験生が増加したことに加えて、コロナ禍や国際情勢によって厳しい経済環境が予想される中で、国公立大志向の高まりが見られました。なお、募集人員は国公立大全体で92人の微増でしたので、志願倍率は4.35倍→4.29倍とほぼ前年度並でした。

〔確定志願者数推移〕(独自日程除く)



□国立大、公立大ともに微減

【設置別】

国立大……前期は 2,836 人(98)、後期は 1,812 人(99)のいずれも微減でした。この結果、国立大全体では 4,648 人(98)の微減となりました。共通テスト受験者数が 14,332 人(-2.9%)減少したことと比較すると減少率は小さく、共通テストの平均点アップと厳しい経済環境を背景とした国公立大志向の高まりの影響が見られました。

公立大……前期は 274 人(101)、中期は 283 人(101)のいずれも微増でしたが、後期は 1,401 人(96)のやや減少でした。中期は厳しい経済環境を背景とした国公立大志向の高まりから受験機会を確保したいという動向が表れました。また、系統への人気が高い薬学部が含まれていることも影響しました。一方で、共通テストの全国平均点はアップしましたが、地方公立大を志望するボリュームゾーンの受験生にとっては、問題文の分量の多さなどから高得点がとりにくいといった側面があり、より目標ラインが高い後期の志願者数減少といった影響が出ました。この結果、公立大全体では 844 人(99)の微減で、4 年連続減少しました。

【日程別】

前期……募集人員は前年度並ですが、志願者数は 2,562 人(99)減少したため、志願倍率は 2.93 倍→2.88 倍とわずか 0.05 ポイントダウンし、前年度に引き続き 3 倍を下回りました。

後期……志願者数は 3,213 人(98)の減少でしたが、後期廃止の大学もあり、募集人員も 262 人(98)減少したため、志願倍率は 10.00 倍→9.96 倍とわずか 0.04 ポイントダウンに留まりました。

中期……志願者数は 283 人(101)の増加で、微増ですが 2 年連続増加しました。募集人員も 79 人(103)のやや増加だったため、志願倍率は 13.36 倍→13.04 倍に 0.32 ポイントダウンしました。